

く定着している。

「キャンプ・コザ」

あるようだ。

コザの名称が定着している

が集まり、現在

に至る歴史的な

文化と沖縄文化

が融合した「異

文化チャンプル

ー」な街並み

が形成されて

いったのであ

る。こうして飛

躍的に経済発展

したコザ市は沖

縄県中部の大繁

華街となつた。

～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

第28回 沖縄県沖縄市

一般財団法人 日本不動産研究所



英語や壁アートも目立つ「コザゲート通り」



レトロでアートな「中央パークアベニュー」

沖縄県にかつて存在した、カタカナ表記の唯一の市「コザ」。市町村合併でコザ市は消滅したが、沖縄市中心エリアは今でもコザと呼ばれ、その呼び名は沖縄県民の間で広

く定着している。

「キャンプ・コザ」と称したことにある。そもそもコザとは何のことかと疑問に思うところだが、これについては、キャンプがあった越來村(さとうむら)を米えくそん胡屋(こや)を米軍が誤読したという説や、これと隣接する美里村古謝(こじや)が混同した説等、諸説

あるようだ。

コザの名称が定着している沖縄市中心エリアは、アメリカ文化が色濃く漂い、英字看板を掲げた店舗が並ぶ様子は、日本にいることを一瞬忘れて、場所と時間が入り混じる。場所と時間が入り混じた何とも不思議な景色である。

異文化チャンブルーなコザ

色褪せていく基地の街

他では見る事のできない街並みだが、米軍基地との歴史のなかで形成された「基地の街」とは想像に難くなかったであろうこと

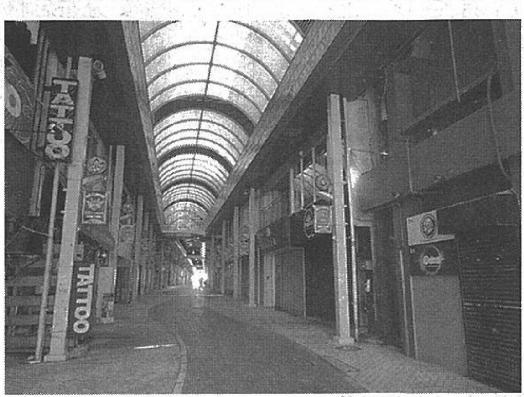
と、また、米兵相手に演奏するミュージシャンが集まるこの街には、多くのショーパブ等が並び、当時は那覇市より煌びやかな街であったといふ。

歴史の記憶を刻む

しかししながら、米軍の統治から離れて40年以上が経過し、繁榮の面影を残しながらも、今のコザはどこかさびしい空気を漂わせている。かつての賑わいはなく、シャツターを下した店舗の方が目立っている。今でも紛れもなく基地の街であるのだが、輝きは年々色褪せていく。

後、米兵を相手に手納に米軍基地が建設された。隣接する嘉手納、米兵相手に想像に難くなかったのである。隣接する嘉手納に米軍基地が建設され、いき、コザ市は基地の街として大きくなつていった。この街

は想に難くなつたのである。隣接する嘉手納に米軍基地が建設された。いき、コザ市は基地の街として大きくなつていった。この街



繁栄が偲ばれる寂れた「一番街サンシティ」

大型ショッピングモールの建設や生活圏の郊外化等、考えられる理由はいくつもある。目まぐるしい勢いで開発が進む沖縄において、人の心が新しいものへと移ろいゆくのも仕方のないことである。それでも地域の個性が失われていくのはなんとも寂しいことではないか。

地元ではこの個性溢れる街並みを観光資源として活用しようとする様々な検討がなされている。先人の残したもののが地元の活性化につながり、後に受け継がれていくのであればこれに勝るものはない。いわゆる文化財と呼ばれるものではないが、歴史の記憶を刻んだ街並みは、守るべき我々の財産ではないだろうか。

(那覇支所／不動産鑑定士・関根俊雄)